

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン

2010年度「危機にある子どもたちのための募金」による活動報告書

募金件数：7,483件

募金金額：51,961,319円

対象期間：2009年10月1日～2010年09月30日

皆さまのご協力により、カンボジア、インド、アゼルバイジャン、コンゴ民主共和国などにおいて、下記をはじめとする支援活動を行うことができました。感謝とともに、ここにご報告させていただきます。

カンボジアにおける性的搾取を受けた子どもたちのケアと環境整備事業



支援地の状況

現在、毎年60～80万人もの人々が国境を越えた人身取引の被害にあっていと推定されています。うち80%を女性や少女が占め、子どもの被害者は50%にも上ります。そして、人身取引の3分の1がアジアで発生しています。

カンボジアにも、人身取引によって売春宿に売られる子どもたちが多くいます。保護された子どもたちは社会福祉・退役軍人・青少年省（以下MoSVY）に登録されたシェルターなどでケアを受けますが、その大部分は政府の十分な監査を受けておらず、MoSVYが定める最低基準を満たしていないものも多くあります。そのためNGOが、人身取引や性的搾取の被害にあった子どもたちに最低基準を満たしたケアやサービスを提供できるよう支援することが、現在の課題の1つです。

支援活動の内容

ワールド・ビジョン・ジャパン（以下WVJ）では2013年までの3年間、人身取引および性的搾取の被害にあった子どもたちへの支援活動を実施していきます。

その特徴は、人身取引の分野で活動している現地のNGOとパートナーシップを組むことによって、より効果的な活動を行っていることです。例えば子どもたちを保護するシェルターにも、売春宿から救出されたばかりの子どもを収容する緊急対応シェルター、身体的・精神的なりハビリなど中・長期的なケアを行うシェルター、子どもたちが故郷に戻った後、コミュニティでの生活になじめるよう支援するシェルターなどがあります。NGO間で情報を交換するこ

WVが支援するシェルターの1つ。保護された子どもたちが共同生活を送っています



とで、子どもたちにより適切なシェルターを提供することができるのです。

今年度は、4つのNGOとパートナーシップを組み活動を進めました。その1つであるワールド・ホープでは、シェルターで働くカウンセラーを養成。性的搾取の被害にあい、新たに収容された25人の少女たちがどの程度身体的・精神的なダメージを受けているか検査し、それぞれの症状にあったカウンセリングやリハビリを実施しています。また今年度は、9人（うち子ども8人、女性1人）がそれぞれの家族や親戚の元へ戻ることができました。



新たに養成されたカウンセラーたち

今後の活動

貧困は人身取引の根本的な原因ですが、同時に出嫁ぎに対する正しい知識の欠如や、出生届・IDを持たない人々の存在など、様々な社会的・経済的な問題が内包されています。また、一国のみでは解決できず、多国間、特に近隣諸国での協力や総合的な取組が求められます。

WVは今後、メコン拡大地域（カンボジア、ベトナム、タイ、ミャンマー、ラオス、中国南西部）で活動を行い、現地国内の法整備を進め、国境を越えた関係機関の連携が進むよう、各国政府に働きかけています。また、WVJの池内スタッフが今年10月からカンボジアに駐在し、今後3年間にわたり、人身取引のプロテクション・社会復帰に特化した活動を進めていく予定です。

支援地から

「売春宿での生活には戻りたくない」

カンボジアのスレイちゃん（仮名・16歳）は、11歳の時に両親によって売られて以来、カンボジア全土の売春宿で働いてきました。時には、警察の捜査や売春宿の倒産から逃げることもありましたが、16歳の時ついに警察に保護され、WVが支援するシェルターに収容されました。

収容された当初錯乱状態にあったスレイちゃんは、カウンセリングを重ね少しずつシェルターのスタッフを信頼するようになり、今は「売春宿での生活には戻りたくない」と言います。彼女は学校に通ったことがなく、読み書きもできません。教育を受け、健全で幸せな人生を送れることを願いながら、絶望感や恥ずかしさ、自暴自棄になりそうな自分と必死に戦っています。



シェルターに保護された少女たち

担当：池内スタッフから

チャイルド・スポンサーシップの支援地域に住む子どもたちに「あなたの夢は何？」と聞くと、どんなに貧しくても「先生になりたい」「医者になりたい」と答えてくれます。それは、私自身にとって大きな励み、励ましでした。しかし、人身取引の被害にあった子どもたちは、皆押しなべて「夢なんてない。とにかく、早く大人になりたい。お金が稼げるようになりたい」と答えます。

WVの一番の目的である、子どもたちの健やかな成長が守られるように、子どもたちが夢を見られるように、皆さまのご支援を受けながら、これからも活動していきます。



インド・アンドラプラデシュ州ハイデラバードの スラムの子ども支援事業



支援地の状況

インドでは現在、240万人と言われるHIV陽性者のうち、2割以上がアンドラプラデシュ州に住んでいます。特に州都であるハイデラバードは、近年急速に発展しているインド第5の都市である一方、多くの労働者の流入でHIV感染のリスクが高く、政府による取組もまだ不十分です。なかでもHIV陽性の親を持つ子どもたちや、HIV/エイズによって親を失った子どもたちへの支援は限られており、弱い立場に置かれています。

支援活動の内容

WVではハイデラバードのスラム地区において、HIV/エイズの影響を受けている子どもたちのために、支援活動を行っています。

治療へのアクセス

地域の病院や他のNGOと協力し、HIV陽性者や子どもたちへのカウンセリング、適切な病院への紹介を行うほか、3カ所のドロップインセンターで健康診断を実施し、日和見感染症にかかっている18人のHIV陽性者を治療、290人のHIV陽性者に免疫力を高めるための指導を行い、35人の子どもたちに日常の健康管理について指導しました。



健康診断のようす

※ドロップインセンター：HIV陽性者がカウンセリングや衣食住などの支援を受ける施設。人の目を気にすることがないよう、配慮されています

経済支援

HIV陽性者の39世帯に対して収入向上のための起業支援を行い、仕立て屋や食料雑貨店、野菜の小売業、サリーの小売業などを開始。中には、地域の若者を雇うまでに商売を広げた人もいます。結果として、起業支援を受けた家族の収入は月22～25ドル増え、子どもたちの食費や教育費に充てることができました。また、政府が発行する配給カード[※]や自分の家を持っていないような、特に弱い立場にあるHIV陽性者の世帯を特定し、政府のサービスを受けられるよう仲介しました。

※配給カード (Ration Card)：特定の店で米や砂糖などを廉価で買うことができるカード。低所得者向けに、政府が発行しています

栄養改善支援

特に栄養状態の悪い人々や子どもたち154人に、米や小麦、食用油、栄養補助食などを提供。またドロップインセンターで、安価な食材を使った栄養価の高い食事の作り方について講習会を実施し、スラムに住む母親115人が参加しました。

教育支援

HIV陽性の親を持つ子どもたちなど、毎日学校へ通うことが難しい21人の子どもたちに対して学用品と学費を、170人以上の子どもたちに学用品を提供しました。

精神的サポートなど

地域のNGOやカウンセラーと協力し、HIV陽性者のカウンセリングを定期的に行いました。また、HIV/エイズに対する偏見や差別を軽減するため、ストリートパフォーマーの寸劇による啓発イベントを30のスラム地区で行い、HIV/

エイズによって弱い立場に置かれた子どもたちの状況について、約1万5,000人の地域住民たちが肌で感じる機会を持ちました。



経済支援を受けて仕立て屋を始めたダスさん

今後の活動 担当:佐々木スタッフから

まだ開始から間もない活動ですが、支援を届けた世帯、子どもたちから多くの喜びや感謝の声が寄せられています。WVJでは、2012年9月まで活動を続けていく予定です。今後は、スラムに住むより多くの世帯、子どもたちに支援を広げてだけでなく、地域社会や地元政府、NGOと協力し、このような活動を地域のなかで持続的に進めるよう、仕組みづくりをしていきます。



アゼルバイジャンにおける障がい児に対する教育支援事業



支援地の状況

アゼルバイジャンではこれまで、社会的・経済的背景から、障がい児の多くが自宅に閉じ込められ、教育を受ける機会がほとんどありませんでした。幸運にも就学機会を得た場合でも、普通学校側の受入体制が整っていないため、障がいの程度が軽くても特殊学校で学んでいます。他方、アゼルバイジャン政府の統計では、施設にいる約1万7,000人の障がい児のうち5,500人あまりは普通学級での学習が可能であり、必要であるとされています。

支援活動の内容

WVJでは2005年から、障がい児たちが普通教育を受けられるよう、パイロットケースとしていくつかの幼稚園・小学校での「統合教育」を支援しています。これまで139人の障がい児たちが普通学級に入学（園）・編入しており、今年度は以下3点に焦点を置き活動を進めました。

アゼルバイジャン政府へ引継ぎ

今後、幼稚園・小学校での統合教育をアゼルバイジャン政府主導で上げていくことができるよう、過去5年間にわたる活動のなかで作成した統合教育用の指導要綱や、教師/教師アシスタント向けのトレーニング用教材などを見直し、改良しました。さらに、今後統合教育を受ける子どもたちの成長をきめ細かく把握できるよう、1人1人に「教育プラン」を作成。障がいの状況、成長度合い、教育成果を詳細に記録し、両親、教師/教師アシスタント、セラピストなどが共有し、学校での指導や家庭生活に活かすことによって、学校、家族、地域が一体となって統合教育を支えていくことができるのです。

統合教育の中学校への展開

中学校では授業のレベルも高度になるだけでなく、教師は専門科目のみを教えるため、指導方法にも工夫が必要なほか、教師間のコミュニケーションも障がいを持つ生徒の成長には非常に重要です。これまでとは異なる指導要綱や教材が必要であるという認識のもと、様々な障がいの種類や程度を想定しつつ、パイロット校の中学校教師に対し、統合教育に必要な授業や指導方法のトレーニングを始めています。

障がい児の社会参画促進

子どもたちの卒業後の社会参画、あるいは普通学校に通うことが難しい障がい児の社会参画への道筋を立てることも重要です。今年度は、いくつかの地域で住民リーダーと話し合い、社会参画を促進する活動を進める地域の選定に着手しました。



ジャミラちゃん（10歳）。聴覚に障がいがありますが、2008年から統合教育のクラスに通っています

今後の活動 担当:木内スタッフから 障がい児たちが生きがいを感じて生活できるようにするには、幼少期から青年期を通じて社会に参画する機会が与えられ、社会との関わりを強くしていくことが必要です。これは、彼らを一員として受け入れる社会にとっても重要な変化です。今後は、中学校での統合教育を進めるとともに、障がい児たちの社会参画促進のため、障がい児/者がどこにいるのか、どのような生活をしているのか、そして地域は彼らのために何ができるのか、住民の人々と話し合い、ともに考えていきます。この活動を通して、1人でも多くの障がい児たちが他の子どもたちと同じように夢を持ち、自らの意志で生き方を決められる日が来ることを、願ってやみません。



コンゴ民主共和国ギブ州における 国内避難民となった子どもたちの緊急保護事業



支援地の状況

コンゴ民主共和国では1960年の独立以来争いがくり返されてきました。特に1998年に始まった第2次コンゴ戦争では、540万人もの人々が犠牲になったと言われています。さらに2008年8月に再開した政府と武装勢力の衝突によって、新たに25万人もの人々が避難民となり、その約60%が子どもたちであると推定されます。同国東部では210万人以上の人々が紛争による影響を受けており、多くの子どもたちが親を失い、子どもたちだけで暮らし、強制労働や拉致などの危険にさらされています。

支援活動の内容

WVJでは同国東部のギブ州にある国内避難民キャンプ、またキャンプから帰還した人々が暮らす農村地域の14カ所に、チャイルド・フレンドリー・スペース（以下CFS）と子ども広場を設置。各CFSには児童保護の訓練を受けたスタッフが常駐し、子どもたちが身体的・精神的に健康を取り戻すことができるよう、様々な活動を行い、74,762人の子どもたちが参加しました。

インフォーマル教育の提供

教育を受けていない子どもたちに、読み書きなどの基本的な学習の場を提供し、家庭菜園、縫製、理容などの職業訓練を実施しました。また、サッカーやバレーボールなどのスポーツ大会、演劇、音楽やダンスなどの様々なレクリエーション活動を実施。このようなレクリエーション活動は、ユニセフ（国連児童基金）を始めとする、同国での児童保護に取り組む人道支援団体によって、効果が認められたカリキュラムです。長期間にわたる紛争によって影響を受けた子どもたちが、子どもらしさ

を取り戻すだけでなく、向上心や表現力、社会のなかで人と関わる力を育てる上でも、大きな役割を果たしています。

子どもミーティングの実施

各CFSで、10～17歳までの男女別グループ（1グループあたり約30人、計390人が参加）をつくり、週1回ミーティングを実施。様々な部族、民族、宗教、年齢から構成されるメンバーが、紛争、暴力、貧困などの社会問題や、自分たちが持つ権利について話し合いました。

女子のグループでは、参加者が自主的にトピックを決め、身近な問題である性暴力や、物資／金銭との交換を目的とした幼少期での結婚による影響、教育を受ける権利などについて話し合いました。これまで同じ被害を受けた少女たちが痛みや経験を共有することで、心のケアにつながりました。

また、各CFSに約20名のメンバーで構成する「子どもクラブ」を設立し、子どもたちが持つ権利についての研修、ライフスキル教育を行いました。さらに、紛争によって親とはぐれてしまった子どもたち、子どもたちだけで生活している世帯を割り出し、親との再会を支援している専門機関に紹介しました。



スポーツ大会のようす



縫製を習う子どもたち

今後の活動 担当:川原田スタッフから 皆さまのご支援のおかげで、CFSを通じて多くの子どもたちが笑顔と元気を取り戻すことができました。しかし、同地域では2010年8月下旬の4日間、武装グループによる暴力行為がくり返され、多くの女性や少女たちが被害にあいました。女性たちの一部は人道支援団体による医療機関で緊急の手当てを受けましたが、今でも多くの女性たち、少女たち、その家族が大きな心の傷を負っています。WVJでは引き続き活動し、1人でも多くの子どもたちが将来への希望と平和を目指して歩めるよう、支援していく予定です。



●お問い合わせは… 特定非営利活動法人 **ワールド・ビジョン・ジャパン**
電話:03-3367-7621(支援者サービス課直通) FAX:03-3367-7652
e-mail: dservice@worldvision.or.jp